



色彩館に咲く

ギンヨウアカシア

Acacia baileyana

マメ科アカシア属

原産地：オーストラリア南東部

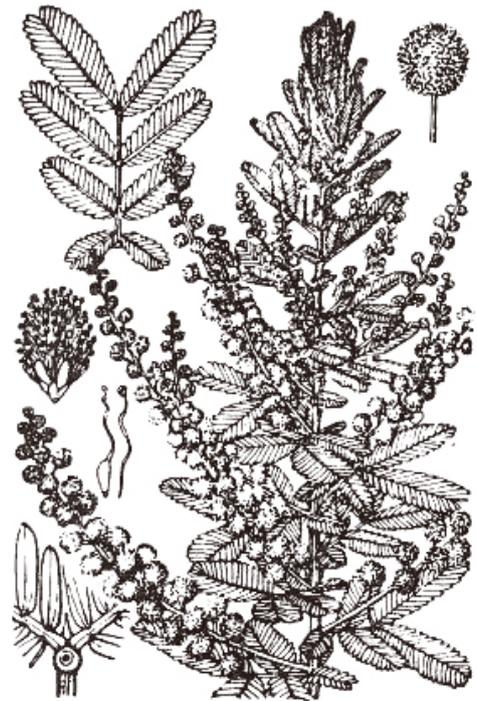
銀色を帯びた葉が美しい

ギンヨウアカシアは、5～10mになる常緑の小高木です。葉の色が銀灰色であることから「ギンヨウアカシア」と名付けられています。北海道では屋外での越冬は難しいですが、暖地では庭木や切花として栽培されています。

花は淡い黄色からやや蛍光がかったレモン色をしており、1つの花は5mm程で、タンポポの綿毛のようにホワホワとしています。この小さな花が房状に咲き、満開時には株を覆うほどのボリュームになります。

元々、アカシア属は日本には自生していませんでした。導入されたのは明治初期で、花が美しい事と、マメ科の特徴である根に根粒菌という土壌改良に有用な微生物を持ち成長が早いことから、やせ地の地力改善用として植栽されたのが始まりでした。今では切花や庭木以外にも、公園や住宅用地などの緑化木に使われています。他にもハチミツや香水、家具材などの広い用途があります。

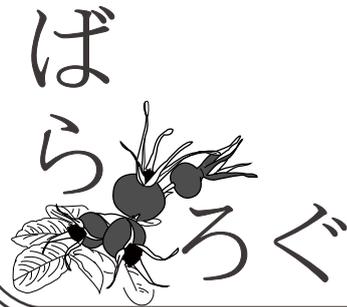
余談ですが、オーストラリアではアカシアを「ワットル」(Wattle)とも呼ぶそうです。これは「編み枝」という意味で、開拓時代に入植者が家の壁や垣根を



アカシアの枝を編んで作ったことからそう呼ばれるようになりました。庭木としてだけでなく、建材や食べ物にも使われるアカシアは、昔からヒトの生活に寄り添って生きている植物と言えますね。

アカシアの別名に「ミモザ」という名前があります。これはフランスでの呼び名です。日本では「フサアカシア」と呼ばれる品種を指します。ギンヨウアカシアと同様に銀灰色の葉と黄色の花をつけます。一見するとよく似ていて混同してしまいがちですが、フサアカシアの方が葉が大きく、花の芳香が強いのが特徴です。ただし、フサアカシアは成長すると10m～16mにも伸びるため、北海道で楽しむために鉢植えで管理するのは難しいかもしれません。もし、ご家庭で鉢植えにして楽しむ場合には、背が大きくなりすぎない品種を選ぶことが大切です。

色彩館大温室に植えられているギンヨウアカシアも植栽されてから3年ほど経ち、年々ボリュームアップしてきました。新春を彩る可愛くて小さなお花を是非お楽しみください。



色彩館大温室では、つるバラの剪定・誘引・葉むしりが12月上旬からスタートしています。ご家庭では室内でのつるバラ管理は難しいので、外で管理している人がほとんどかと思えます。その栽培において、花が咲かない・生育が旺盛すぎて手がつけられないといったことがありますよね。品種ごとに剪定は異なり、また一季咲き、四季咲きと様々です。またつるバラといっても、アサガオなどの他のつる性の植物とは違い、自ら絡まずただ枝を伸ばすだけなので、紐などで構造物に誘引しなければなりません。基本的に北海道では、剪定は春に1回だけで、誘引も同じく春先になります。自分の栽培している品種の特徴を知り、今時季は作戦を練るチャンスといえます。



色彩館

ヤブツバキが見ごろで、これからはミモザも見ごろを迎える大温室は初春らしい彩りをなしています。先月上旬から始めたつるバラの葉むしり・剪定作業もそろそろ落ち着きます。来春はどんな風に咲き誇ってくれるのか楽しみです。

バラ園

バラのお世話はひと休み。除雪や供給センターのお手伝いをしつつ、樹名板の整備など、来年に向けての準備作業を進めています。

花と緑の供給センター

花苗の播種作業が始まりました。バラ園のなかではいち早く繁忙期の幕開けです。元気な苗が育ち、出荷するまで気が抜けません。

あけましておめでとうございます。

春の七草の話



文：MIZ

新しい年が来ましたね。おせち料理を始め、お餅やカニをたくさん召し上がったのではないのでしょうか。お腹がちょっと苦しくなってきましたか？昔の人も、食べ過ぎることがあったのでしょうか。七草粥はお正月の食べ過ぎて疲れたお腹を休めるために食べられてきました。諸説あるようですが、カブ・コオニタビラコ・セリ・ダイコン・ナズナ・ハコベ・ハハコグサの7種のことを言います。また七草は、野菜の少ない冬場に栄養を補給する役目も持っていたようです。他にも邪気を払い、病気を防ぐという節分に似た意味もあります。七草は七草でも「秋の七草」もありますよね。こちらは春の七草と違い、食べるのではなく観賞することがメインです。食欲の秋ではなく、観賞の秋になるのですね。

よし
なし
ごと

ひとつき ひとバラ



文：新堂大樹
(いわみざわ公園バラ園)

イラスト：藤川志朗
(イラストレーター)

第二十二回

ランブラーローズ

スーパー エクセルサ

Super Excelsa

作出国：ドイツ

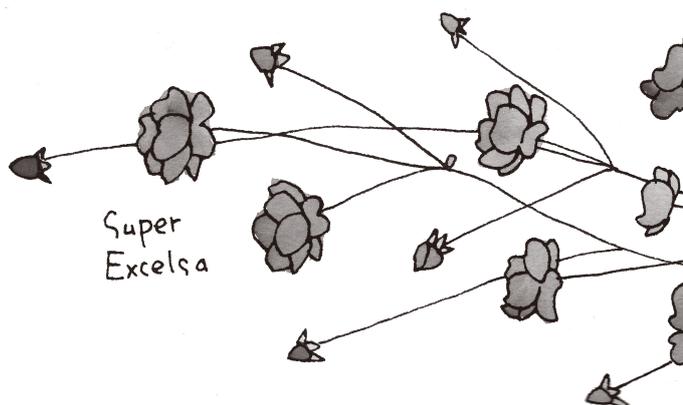
作出者：Karl Hetzel

作出年：1986年

ハーディネスゾーン：Z5

繰り返し咲き性

交配：Excelsa × Unknown



ドイツのコルデス社の手による作品で、花色は濃いローズレッド色、とても可愛らしい八重咲きのポンポン咲きです。1茎に20～30輪もの花をつけ、株を覆い尽くすほどに咲くその姿は圧巻で、花保ちが非常によく、にぎやかで華やかな雰囲気を作り出してくれます。耐寒・耐暑・耐病性に優れていて、とても丈夫で初心者でもたいへん育てやすい品種です。香りは微香で、枝はしなやかで良く伸びるのでわりと仕立てやすく、様々なタイプの構造物への誘引が可能です。

交配親はエクセルサ(別名：レッドドロシーパーキンス)で、ロサウィクライアナ(テリハノイバラ)の交配種です。花色はスーパーエクセルサと同じくローズレッド色で、一季咲きです。簡単に言えば、エクセルサの良いところ取りで、さらに繰り返し咲きにした進化版がスーパーエクセルサというところでしょうか。耐寒・耐暑性の強さや、樹形や葉の特徴などからも、テリハノイバラの血筋をしっかりと受け継

いでいることが見てとれますよね。

また、スーパーエクセルサは1991年にADR賞を受賞しています。ADR賞は、バラの美しさだけでなく、耐寒性・耐病性が重視され、育成の過程が評価される世界でも難易度が高い賞です。無農薬でバラを育てたい方や、北海道のような冬が厳しい地域では、耐病性や耐寒性の強さは大事なポイントですよ。

バラ園では、スーパーエクセルサは整形式花壇でみることができます。とくに目立った病気もなく、花保ちも良く、すくすく育っています。来年にはさらに株も大きくなり、さぞかし見ごたえが増すことでしょう。ちなみに、その交配親のエクセルサは、色彩館大温室で大きく育てていて、5月上旬ごろから下旬にかけて見事に咲き誇ります。

ひとあし先にエクセルサが色彩館にて見頃を迎えますが、6月下旬頃から7月にかけての最盛期にはスーパーなエクセルサもぜひ見に来てください。



冬期間も営業中～！

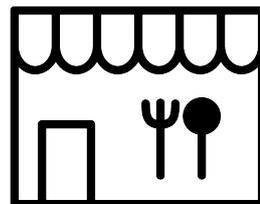
バラ園内にありますレストラン『TORATTORIA L u c c i』は冬期も営業中です。

営業は土日祝日のみで、営業時間は 11:30～15:00(ラストオーダー 14:30) で営業しております。

2016年の年明けは1月9日(土)から営業いたします。

お問合せは
札幌本店へ  050-5798-2196

トラットリア ルッチ
TRATTORIA Lucci



1月の市民園芸講座のご案内

これは面白い！



● 1月17日(日) 13:00～15:00 折りバラを楽しもう 上級

有料 300円 定員：15名 講師：バラ園スタッフ

五角形の折り紙を使って折るバラです。

初級・中級編を受講していなくても大丈夫！

スタッフが親切丁寧にお教えいたします。

● 1月31日(日) 13:00～15:00 春に向けて種をまこう

有料 500円 定員：15名 講師：バラ園スタッフ

いつも苗で植えているお花を種から育ててみよう！

町内の花苗生産をしている『花木園』スタッフが
花苗生産現場の裏側・裏ワザも見せてくれるかも？！

● 2月21日(日) 9:30～12:00 いわみざわ公園のアニマルウォッチング

無料 定員：40名 講師：若林 信男さん 岩見沢野鳥の会会長

● 2月21日(日) 13:00～15:00 洋らん栽培の楽しみ方

無料 定員：40名 講師：川面 豊樹さん えるむ花園